２０２６年１１月２７日
ＳＯＭＰＯホールディングス株式会社

ＣＤＰの「気候変動」の調査において、通算１０回目の最高評価「Ａリスト」企業に選定

ＳＯＭＰＯホールディングス株式会社（グループＣＥＯ取締役代表執行役社長：奥村 幹夫）は、国際的な非営利団体であるＣＤＰの２０２６年の「気候変動」の調査で最高評価の「Ａリスト」企業に選定されました。今回の選定は、通算１０回目となります。なお、「フォレスト（森林）」分野においても、リーダーシップレベルである「A−」を獲得しました。

１．ＣＤＰの概要

ＣＤＰは、企業や自治体の環境情報開示のための世界的なシステムを運営する非営利団体です。２０００年の設立以来、資本市場や企業の購買力を通じて環境課題への取組みを先導しています。

毎年、企業等に対して「気候変動」「フォレスト」「水セキュリティ」などに関する質問書を送付し、リスク・機会への認識、戦略、ガバナンス、目標設定や進捗状況についての開示内容を評価しています※１。

評価は開示の網羅性や取組みの進展度に応じてＡからＤ−までの８段階で付与され、なかでも最も優れた情報開示と取組みを実証した企業が最高評価である「Ａリスト」企業として認定されます。

※１　昨年２０２５年は、全世界で２２，０００社を超える企業が調査に回答しており、日本ではプライム市場上場企業の７０％以上を含む、約２，０００社がＣＤＰを通じてデータを開示しました。詳細は同団体ホームページをご覧ください。https://www.cdp.net/ja

２．ＳＯＭＰＯグループの環境への取組み

ＳＯＭＰＯグループは、ＴＣＦＤ提言への早期賛同やＴＮＦＤアーリーアダプターへの登録をはじめ、国際的なフレームワークの導入を通じて、環境ガバナンスの強化および情報開示の拡充に長年取り組んできました。２０２６年の調査においては、継続的な気候変動への取組みと透明性の高い情報開示が評価され、通算１０回目となる最高評価「Ａリスト」への選定につながりました。

さらに、２０２６年度から始動したグループ環境戦略「SOMPO Earth Positive Actions※２」において、「気候変動」「生物多様性」「循環経済」を統合的に捉えた「シナジーアプローチ」を導入したことなどが評価され、「フォレスト」分野での「A−（リーダーシップレベル）」を獲得しました。

※２　ＳＯＭＰＯホールディングス ウェブサイト （「SOMPO Earth Positive Actions」）

３．今後について

ＳＯＭＰＯグループは、今後も「SOMPO Earth Positive Actions」を推進するとともに、透明性の高い情報開示を積極的に行い、ステークホルダーとの建設的な対話を深めることで、人と自然が調和した持続可能な社会の実現に貢献していきます。

以上